

「過去2番目」の財政規模を誇るけれど…… 市民には冷たい市予算(案)

2月13日、西宮市は2015年度当初予算案を発表しました。総額では前年度から約44億円(1.4%)増の3,109億2,388万円となり、当初予算としては、阪神・淡路大震災直後の1997年に次いで過去2番目の規模となっています。

また、日本共産党西宮市会議員団は昨年8月、423項目の「予算要望書」を提出していましたが、このたび回答があり、小学校10校にエアコンの整備、西宮養護学校校舎改築の基本計画策定など、多くの要求が実現しました。

2015年度予算総額			
	2015年度	2014年度	前年比
一般会計	1747.5億円	1678.4億円	69.1億円
特別会計	911.0億円	876.2億円	34.8億円
企業会計	450.6億円	510.8億円	60.2億円
総計	3109.2億円	3065.4億円	43.7億円

一般財源内訳			
	2015年度	2014年度	前年比
市税	844.88億円	833.04億円	7.83億円
譲与税・交付金	96.68億円	67.75億円	28.93億円
地方交付税	45.02億円	77.86億円	32.84億円
臨時財政対策債	66億円	71.06億円	5.06億円
その他	7.43億円	7.43億円	0
財政基金取崩し	42.65億円	14.88億円	27.77億円
減債基金取崩し	20億円	20億円	0
総額	1122.66億円	1096.03億円	26.62億円

歳入では、給与所得増などで個人市民税(10億3200万円増)など市税が7億8300万円増、地方消費税が28億1200万円増など、収入増が見込まれるため、地方交付税、臨時財政対策債で約38億円減額されます。財政基金の取崩しを除いても、一般財源は前年並みを確保しました。

歳出では、子ども・子育て支援新制度への移行等により児童保育費で22億2300万円増、開発による児童急増対策で高木北小新設や上甲子園・南甲子園小の増改築など、教育費が54億2800万円増、子育てや教育で増額。また、マイナンバー制度に3億3400万円を計上されています。

震災後最大で3150億円にまで増えた市債(借金)は、新年度末には906億円(臨時財政対策債を除く)となり、震災前水準までに減ります。財政基金等が96億円に激減しますが、別の基金に(公共施設保全積立基金)16億円を事実上振り替えたもの。今後生じる14、15年度決算剰余金を考慮すれば、市民生活を応援するための財源は充分あります。

国保への繰り入れ3億円減

国民健康保険料引き下げのため、2012年度から一般会計より10億円を繰り入れてきましたが、新年度は3億円減の7億円に。当局は「保険料は上げない」と説明していますが、前年並みに繰り入れて、引き下げを進めるべきです。

また、新年度から3年間の65歳以上の高齢者の介護保険料(基準額)が、4,947円から5,200円に、5%の値上げです。

「子育て支援」というけれど

市は新年度に、放課後に校庭などを活用して自由な遊び場を提供する「子どもの居場所づくり事業」をモデル実施するなど、「子育て支援」を進めるとしています。

しかし、公立幼稚園の保育料は、子ども・子育て支援新制度への移行により、保護者の所得による応能負担となり、約8割の世帯が値上げになります。↗

また、市長公約でもあった、中学3年生までの医療費無償制度の所得制限撤廃は、就学前児童までを対象に、全部負担から一部負担へ変更するのみ。公約からは大きくかけ離れています。

UR借り上げ住宅追い出し……市営住宅減

県や神戸市は「住み続けたい」と願う住民の声を聞き高齢者、障がいのある人、義務教育中の子どもがいる世帯等、継続入居を認めています。西宮市だけは市長が変わっても全員退去という冷たい姿勢のままです。2015年9月末に20年の期限が来るシティハイツの住民には「明け渡し通知」を送り退去させようと、新年度予算では転居費用を4,500万円計上しています。コミュニティやつながりが大事と言われましたが、阪神・淡路大震災の教訓をまったく学んでいないのが西宮市です。

住民のみなさんと力合わせこんな前進面も…

わかば園の移転建て替え 「子ども未来センター」として9月スタート

さまざまな障がいを持つ子どもたちに診療や療育を行っている市立わかば園（津門川町）は、市内のみならず阪神間からも多くの親子が訪れ頼りにされてきましたが、機能拡充のたびに繰り返された増設で施設は継ぎはぎだらけ。建て替えは、年来の課題であり、党議員団も強く要求していました。

このたび、不登校などの教育相談等を行っているスクーリングサポートセンターと再編され、高畑町に移転。「西宮市立こども未来センター」（児童発達支援センター）として、9月にスタートします。

- ・ 保育所待機児童対策で4月に定員349人増、年度中に330人増
- ・ 障がいなど課題のある児童への保育士配置を3対1→2対1に拡充
- ・ 学文殿保育所建て替え、大社、小松朝日保育所改修、むつみ・芦原保育所移転合築
- ・ 保育所保育料の引き下げ（3歳未満児98,000円 → 85,000円）
- ・ 私立幼稚園就園奨励助成金の所得制限撤廃
- ・ 学校トイレの洋式化促進
- ・ 2013、14年度の中学校につづき、小学校10校の普通教室及び特別教室にエアコン設置（16年度で完了予定）
- ・ 学校給食での食物アレルギー対応策強化
- ・ 西宮東高校16年度から3年間で3学級増のため、教室増設等
- ・ 母子生活支援施設（母子寮）の移転建て替え
- ・ 妊婦健康診査の拡充（14回72,290円 → 約82,000円）
- ・ 救急医療24時間電話医療相談の実施

老朽校舎 建て替え

香櫨園小と西宮養護で基本計画 上甲子園小、南甲子園小は完了

上甲子園小北校舎、南甲子園小建て替えは新年度完了し、高木北小は16年度開校をめざしていますが、市内小、中、高校等の中には、築50～60年を経過する校舎・体育館や、教室不足など、対応が必要な学校が多く存在します。

市は優先度が高い学校として8校（春風小、香櫨園小、安井小、深津小、瓦林小、大社小、瓦木中、西宮養護）を選定し、新年度は香櫨園小と西宮養護学校について、基本計画を策定し、増改築を進めます。

8校はもちろんのこと、学校園の施設改善は急務です。

- ・ 石在町市営住宅、甲子園春風町市営住宅の建て替え
- ・ 防犯灯の直営化とLED化をめざし（2016年度）実態調査
- ・ 青葉台地区と花の峯地区を結ぶ連絡道路整備（用地買収等）
- ・ 競馬場線道路整備（用地買収等）
- ・ 武庫川広田線（中津浜線以東～瓦木なかの道）整備（調査）
- ・ 阪急神戸線西宮北口駅から武庫川までの立体交差検討着手
- ・ 今津西浜町、上ヶ原十番町ほか歩道新設
- ・ JR西宮名塩駅改札口と駅前広場等を結ぶエレベーター整備
- ・ 各種災害に対処するための消防訓練施設を甲子園浜に整備
- ・ 市住跡地において仮称堀切公園の整備
- ・ 西宮浜・御前浜公園の整備（基本設計）
- ・ 議会本会議インターネット中継
- ・ 政務活動費の領収書等証拠書類のホームページ公開

子ども・子育て支援新制度で

「待機児童」定義を大改悪…

4月から始まる子ども・子育て支援新制度。厚生労働省は、保育所整備の目安となる「待機児童」の定義を大きく変えようとしています。

例えば、認可保育所入所を希望しても入れず、やむなく従来の私立幼稚園の預かり保育や小規模保育を利用する場合は「待機児童」になりません。また、認可保育所のみを希望し、小規模保育所等の入所を希望しなかった場合は「私的理由」とされ待機児童から除外されます。保護者は「預けられるならどこでもいいのではない。保育の質がよくなければ、安心して預けられない」と語っています。安上がりの保育ではなくさらに認可保育所を増やすべきです。

アサヒ跡地購入に

55億円の補正予算

市長選挙で白紙に戻ったアサヒビール跡地計画。その後西宮市土地開発公社が県市統合病院の建設候補地として2.6haを購入することとなり、3月補正予算案で55億円が計上されることとなります。55億円は基金を取崩して充当することとなります。この基金の減少を理由に財政危機をあおって市民サービス切り下げの口実にすることは許されません。

なお市立中央病院は、現施設の機能維持のため、耐震化、老朽化対策や医療機器整備等に5億7200万を計上します。

